

【奨励賞】

『お母さん銀行』はもうやめへん？ お年玉運用カタログギフトの提案

大阪市立大学 商学部 小倉 孝太

〃 栗原 泰彬

〃 森脇 央佳

（要旨）

近年、金融リテラシーへの関心が高まる中、株式や投資信託といったお金の運用に関する知識・関心の低さは、大きな課題のひとつである。実際、我々が行ったアンケート調査では、子供の時に貰ったお年玉をそのまま親に預けていた場合（所謂「お母さん銀行」）、その後もお金の運用への意識・関心は低い傾向が窺われた。

本論文では、「お年玉運用カタログギフト」の導入を提案する。お年玉を渡す立場の親や祖父母が、銀行・証券会社等から発行されたカタログギフトを購入して、それを子供に贈り、子供達はそのカタログギフトから自分の投資運用形態を選択することで、お年玉を元手として投資を始めることができるという投資サービスである。

本提案の実現により、子供の頃から、自分のお金は自分で管理・運用することができ、敬遠されがちであった株式投資の経験も積む事ができる。こうした経験を通じて、若年層の金融リテラシー向上が期待される。